

(講座) 臨床薬学  
(氏名) 中嶋幹郎

(研究室) 病院薬学  
(職名) 教授

### 【研究テーマ】

1. 後発医薬品の適正使用に関する基礎的および臨床薬学的研究
2. 臨床での調剤・医療コミュニケーションを基盤とする実学研究
3. 医薬品の薬効・副作用に関する評価法の開発

### 【発表論文】

#### A 欧文

##### (A-a) 原著論文

1. T.Ueki, K.Nagai, N.Ooe, M.N.Nakashima, K.Nishida, J.Nakamura, M.Nakashima : Case-controlled study on risk factors for the development of constipation in hospitalized patients, *Yakugaku Zasshi*, 131(3), 469-476. (2011). (IF:0.427)
2. T.Kondoh, A.Kanno, H.Itoh, M.Nakashima, R.Honda, M.Kojima, M.Noguchi, H.Nakane, H.Nozaki, H.Sasaki, T.Nagai, R.Kosaki, N.Takee, T.Okuyama, M.Fukuda, M.Ikeda, Y.Shibata, H.Moriuchi : Donepezil Significantly Improves Abilities in Daily Lives of Female Down Syndrome Patients with Severe Cognitive Impairment- A 24-Week Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Trial, *Int. J. Psychiatry Med.*, 41(1), 71-89. (2011). (IF:0.909)
3. T.Mine, H.Ishii, S.Nakajima, N.Yoshikawa, H.Miyamoto, M.Nakashima, S.Fumoto, K.Nishida : Rubbing gastric serosal surface enhances naked plasmid DNA transfer in rat and mice. *Biol. Pharm. Bull.*, 34(9), 1514-1517. (2011). (IF:1.811)
4. T.Ueki, K.Nagai, Y.Mizukami, A.Takahashi, N.Ooe, M.N.Nakashima, K.Nishida, J.Nakamura, M.Nakashima : Cross-sectional study on relationship between constipation and medication in consideration of sleep disorder. *Yakugaku Zasshi*, 131(8), 1225-1232. (2011). (IF:0.427)
5. R.Araki, E.Yukawa, M.N.Nakashima, H.Fukuchi, H.Sasaki, K.Yano, M.Nakashima : Population pharmacokinetic investigation for optimization of amiodarone therapy in Japanese patients. *Ther. Drug Monit.*, 33(6), 750-756. (2011). (IF: 3.127)

#### B 邦文

##### (B-b) 総説・アブストラクト

1. 中嶋幹郎、手嶋無限、坂本仁美：大学で育むチーム医療 第1回 薬看連携を基盤とする在宅チーム医療教育の展開、調剤と情報、**17(7)**、925-930(2011)。

2. 江頭かの子、佐々木均、兒玉幸修、中嶋幹郎、樋口 駿、家入一郎：タクロリムスの血中濃度に及ぼすグレープフルーツまたはザボン摂取の影響、TDM 研究、28 Suppl、s184 (2011).

(B-c) 著書

1. 中嶋幹郎：IV処方せんから見るフィジカルアセスメント 2 脂質異常症薬を含む処方例．（濱田久之、佐々木均、北原隆志（編）：薬剤師がはじめるフィジカルアセスメント副作用症状を見抜くためのポイント、南江堂、東京、pp. 145-147 所収）2011
2. 中嶋幹郎：6 薬剤の交付・服薬指導 I 薬剤の交付手順と必要なコミュニケーションスキル．（一川暢宏、中嶋幹郎（編）：臨床調剤学、南山堂、東京、pp. 280-289 所収）2011
3. 中嶋幹郎：6 薬剤の交付・服薬指導 II 薬剤交付時の注意事項．（一川暢宏、中嶋幹郎（編）：臨床調剤学、南山堂、東京、pp. 290-291 所収）2011
4. 中嶋幹郎：6 薬剤の交付・服薬指導 I 薬剤の交付手順と必要なコミュニケーションスキル．（一川暢宏、中嶋幹郎（編）：みてわかる薬学 図解臨床調剤学、南山堂、東京、pp. 270-279 所収）2011
5. 中嶋幹郎：6 薬剤の交付・服薬指導 II 薬剤交付時の注意事項．（一川暢宏、中嶋幹郎（編）：みてわかる薬学 図解臨床調剤学、南山堂、東京、pp. 280-281 所収）2011

(B-d) 紀要・その他

1. 中嶋幹郎、手嶋無限、坂本仁美：平成 21 年度文部科学省戦略 GP 選定取組「在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成」平成 22 年度報告書．（長崎薬学・看護学連合コンソーシアム（編）、長崎大学）2011
2. 中嶋幹郎、手嶋無限、坂本仁美：看護師と仲良くなろう 薬学と看護学の教育連携、GSK pharmacist journal 34、8-10 (2011).
3. 中嶋幹郎、手嶋無限、坂本仁美：次世代のチーム医療－在宅医療における薬看連携経過と展望－、ケミスト 10、1-2 (2011).

**【学会発表】**

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. M. Nakashima, H. Tachiki, T. Shimada, D. Hynes, S. Nagatsuka: Bioequivalency of Two Different Methotrexate Formulations in Hepatic Gene Expression of PXB-mice with Highly Humanized Liver. SOT 50th Anniversary Annual Meeting. Washington, D.C., USA, March (2011).

## B 国内学会

### (B-b) 一般講演

1. 手嶋無限、中嶋幹郎、畑山 範、長崎薬学・看護学連合コンソーシアムによる地域における先導的医療人教育の展開、日本薬学会第 131 年会、平成 23 年 3 月、静岡
2. 手嶋無限、河島生美、中嶋幹郎、狭間研至、薬剤師による薬剤師のためのバイタルサイン講習会の取り組み、日本薬学会第 131 年会、平成 23 年 3 月、静岡
3. 上松聖典、手嶋無限、市丸哲郎、草野真央、鬼塚尚子、隈上武志、中嶋幹郎、佐々木均、鈴間潔、北岡隆、ラタノプロスト製剤による角膜バリア機能の変化、第 115 回日本眼科学会総会、平成 23 年 5 月、東京
4. 江頭かの子、佐々木均、兒玉幸修、中嶋幹郎、樋口 駿、家入一郎、タクロリムスの血中濃度に及ぼすグレープフルーツまたはザボン摂取の影響、第 28 回日本 TDM 学会学術大会、平成 23 年 6 月、広島
5. 中嶋幹郎、立木秀尚、島田卓、長塚伸一郎、中嶋弥穂子、藤井貴玄、大脇裕一、手嶋無限、同一有効成分の医薬品適用時における薬剤性肝障害のリスク予測法に関する研究、日本ジェネリック医薬品学会第 5 回学術大会、平成 23 年 6 月、東京
6. 手嶋無限、坂本仁美、麓伸太郎、北市清幸、榊原隆三、赤司千波、松本幸子、大町いづみ、浦田秀子、中嶋幹郎、畑山 範、中山守雄、長崎薬学・看護学連合コンソーシアムにおける大学間連携在宅ケア実習～多職種チーム在宅支援を学ぶ～、第 19 回日本ホスピス・在宅ケア研究会、平成 23 年 7 月、沖縄
7. 手嶋無限、坂本仁美、北市清幸、榊原隆三、赤司千波、松本幸子、大町いづみ、浦田秀子、中嶋幹郎、畑山 範、在宅療養支援における多職種連携の実践を学ぶ大学間連携早期体験学習の展開～長崎薬学・看護学連合コンソーシアムの取組～、第 16 回日本緩和医療学会学術大会、平成 23 年 7 月、札幌
8. 上松聖典、手嶋無限、市丸哲郎、草野真央、鬼塚尚子、隈上武志、中嶋幹郎、佐々木均、鈴間 潔、北岡 隆、ポリソルベートを含むラタノプロスト製剤による角膜バリア機能の変化、第 31 回日本眼薬理学会、平成 23 年 9 月、松江
9. 植木哲也、毛利由佳、坂本佳子、長井恵子、中嶋弥穂子、中嶋幹郎、腎機能低下と食事摂取不良に関する薬剤師の指摘によりジスチグミン臭化物の有害事象を回避した 1 症例、第 5 回日本腎と薬剤研究会学術大会、平成 23 年 9 月、北九州
10. 中嶋幹郎、松下文学、辻麻依子、大脇裕一、手嶋無限、小池佳代、立木秀尚、点眼時における角膜上皮バリア能への障害性に着目したラタノプロスト点眼液の品質評価、第 21 回日本医療薬学会、平成 23 年 10 月、神戸

11. 中嶋幹郎、薬看連携による多職種チーム在宅支援の実現をめざした長崎薬学・看護学連合コンソーシアムの取組、第 21 回日本医療薬学会、平成 23 年 10 月、神戸
12. 植木哲也、坂本佳子、毛利由佳、小山 泉、宮野佳子、谷崎房代、平林友紀子、水上靖子、原田桂作、姫野英二、福永竜一、山本朗子、田崎奈緒子、橋口 靖、山下正義、長井恵子、中嶋弥穂子、中嶋幹郎、入院患者に対する薬学的介入の異なる病棟間での比較、第 21 回日本医療薬学会、平成 23 年 10 月、神戸
13. 坂本仁美、手嶋無限、北市清幸、大磯 茂、榊原隆三、赤司千波、松本幸子、大町いづみ、浦田秀子、麓伸太郎、中嶋幹郎、中山守雄、在宅療養支援施設での薬学部との大学間合同チーム医療実習、第 42 回日本看護協会看護教育学術集会、平成 23 年 10 月、松山
14. 手嶋無限、坂本仁美、浦田秀子、中嶋幹郎、中山守雄、榊原隆三、松本幸子、上田成一、薬看連携による多職種チーム在宅支援を指向した大学間共同による在宅ケア実習、第 16 回長崎県国保地域医療学会、平成 23 年 11 月、長崎
15. K. Egashira, H. Sasaki, Y. Kodama, T. Nakamura, T. Kitahara, M. Nakashima, S. Higuchi, I. Ieiri: Food-drug interaction of tacrolimus with pomelo, ginger, and turmeric in rats. 日本薬物動態学会第 26 回年会、平成 23 年 11 月、広島
16. 荒木良介、手嶋無限、佐々木均、上松聖典、北岡 隆、中嶋幹郎、電気生理学的手法を用いたヒアルロン酸ナトリウム点眼液の角膜保護作用に関する研究、第 28 回日本薬学会九州支部大会、平成 23 年 12 月、福岡

### 【研究費取得状況】

1. 同一薬効成分の医薬品適用時におけるヒト肝毒性イベントのリスク予測法に関する研究、日本学術振興会 科学研究費補助金基盤研究 (C) (研究代表者)

### 【学会役員等】

1. 日本医療薬学会評議員
2. 日本 TDM 学会評議員
3. 日本ジェネリック医薬品学会評議員
4. 九州山口薬学会理事
5. 日本薬学会薬学教育改革大学人会議委員
6. 薬学教育協議会委員
7. 薬学共用試験センターOSCE 実施委員会委員
8. 長崎県薬剤師会理事
9. 長崎県保健医療対策協議会がん対策部会委員

**【過去の研究業績総数】**

|        |      |      |      |      |
|--------|------|------|------|------|
| 原著論文   | (欧文) | 86 編 | (邦文) | 30 編 |
| 総説     | (欧文) | 1 編  | (邦文) | 7 編  |
| 著書     | (欧文) | 1 編  | (邦文) | 12 編 |
| 紀要・その他 | (欧文) | 1 編  | (邦文) | 25 編 |
| 特許     |      | 1 件  |      |      |